

## 令和元年度第2回(第36期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和2年1月28日(火)午後2時から午後3時30分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席状況
- |      |   |
|------|---|
| 委員   | 伊藤豪委員、島埜内恵委員、鈴木信行委員、<br>屋名池倫子委員、河合亮子委員、近藤潤子委員、<br>鈴木一夫委員、中村朋子委員、晝馬るみ委員、<br>高木一徳委員 |
| 事務局  | 寺田文化振興担当課長、<br>藤田生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長、<br>山内指導主事、井ノ口指導主事                        |
| 欠席委員 | なし  |
- 4 傍聴者 1人(一般:0人、記者:1人)
- 5 議事内容
1. 人生100年時代の生涯学習・社会教育のあり方  
(第50回関東甲信越静社会教育大会を受けて)
  2. 令和元年度集まれ市民力～生涯学習フェスタについて
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ 山内剛治、今井千晶
- 7 記録の方法
- |          |   |
|----------|---|
| 発言者の要点記録 |   |
| 録音の有無    | 無 |
- 8 会議記録

1 開会

2 議事

(1)第50回関東甲信越静社会教育大会の報告

■事務局から、資料1に基づき、第50回関東甲信越静社会教育委員の報告

■人生100年時代の生涯学習・社会教育のあり方について協議

(伊藤豪委員長)

人生100年を迎え、この先どう前向きに生きていくかについては、戸惑いも強い。委員の皆様におかれては、浜松市において人生100年時代の生涯学習、社会教育をどう進めていくべきなのか、それぞれの立場や経験から意見を伺いたい。

(鈴木一夫委員)

私たちは、協働センターよりも小さな単位で活動している。私は、南区の様々な町へ行って音楽演奏をしているが、町によって元気さが違う。元気な町はリーダーがいて、リーダーの存在はとても大きい。誰かがやったら参加するが、自分たちでは始められない人がいる。また、塾に行けない子供達を集めて民生委員さん、南高校の生徒さんと一緒に月1回の勉強会も行っている。活動をやりたい人はたくさんいるが、自分が責任をもつことに対して抵抗がある人が大勢いる。役員をやるよりも、自分の好きなことをしたい。活動の中心となるリーダーや、活動を助けてくれる「社会教育士」のような専門家が必要ではないかと思う。

(伊藤豪委員長)

とても貴重な意見を聞かせていただいた。人材育成やリーダー等、重要なポイントが出てきた。大きな組織でやると、役員をやるのが嫌な人も出てくる。組織ではなく少人数の単位だと活動しやすいのではないか。また、活動できる場所も必要。

(屋名池倫子委員)

「浜松友の会」という主婦の団体の代表を務めている。平均年齢が68歳で、90代から30代までの方が所属している。持ち回りでリーダーになる。そうすると80代の方にもリーダーが回ってくるが、役割があることで生き生きと活動されている。子供との関わりもあり、子供を育てるという意識を常に持って積極的に関わっている方は皆元気である。現在、浜松市では、地域と学校が協力して学校を運営していくコミュニティ・スクールを進めている。コミュニティ・スクールで育った子供たちが、地域を愛するようになり、地域に戻ってきて地域を引っ張っていくリーダーになってくれるのではと期待している。

(中村朋子委員)

違う課や部署との連携や協働ができないかと考えている。例えば、引佐の「ひよんどり」は学院大の学生が後継者として引き継いでいる。広く社会教育として捉え、管轄の違う部署でも発表の場が得られたらよいと思う。また、人権擁護委員をやっているが、その作品展示等を、引佐協働センターでも実施できたらと思う。違う分野同士でも、コラボできたらよいと思う。

(伊藤豪委員長)

私の住んでいる地域にも100年以上前から続く行事があったが、やる人がいなくなり今は休止している。こうした伝統的な行事が、昔は地域づくりの役割を果たしていた。

(鈴木信行委員)

少子化で子供の数が減っている中で、地域と連携しながら学校も地域も活性化し、地域に愛され地域と共に歩み続ける学校づくりを進めていくのが課題である。総合的な学習の時間などは、地域と関わりながら進めている。子供たちが地域との関わる中で学びを深め、卒業していくことが、生涯学習に繋がるのではないか。義務教育の時から、学び直しができるような生涯学習について意識していけるとよいと感じている。

(晝馬るみ委員)

地域をどう捉えるかは様々だが、まずは自分の住んでいるところを好きになってもらうことが大切だと感じている。内野小学校の総合的な学習の時間で、アイガモ農法について学んでいる。地域の人たちと子供たちが学習をともにするなど、地域を好きになる仕掛けがあるとよい。こうした活動をリードしていく人材として、人材バンクを充実させ、うまく活用できるとよい。

(高木一徳委員)

人生 100 年時代、恐ろしい時代になったと思った。身体、気力のバランスを考えたとき満足できる仕事がいつまで出来るか。定年が 65 歳では息切れしてしまうが、定年を伸ばすためには、どうしたらよいのか。学校関係で言えば、教員の数を増やしてほしいと思う。山間部は子供の数が減っており、中年層の人たちも都市部に出て行ってしまっている。人口流出の防止や働き方改革など、行政でなければできないことがある。市とタイアップしながら、これからの社会教育を具体的に考えていかなければならないと思う。

(伊藤豪委員長)

長生きする人が増えるほど、行政が費やすお金が増える。例えば、食事を買うのではなく作るなど、私たちもお金をかけずに生活する努力が必要ではと思う。

(近藤潤子委員)

青少年健全育成会として、小中学生を対象として様々な活動や支援を行っている。地域で学んだ子供たちが、講師や活動をする立場になってまた地域に戻ってくるとよいと思う。ノルディックウォークを年 2 回ほどガーデンパークで行い、地域の各団体同士の交流を図っている。地域の同好会やサークル等は成果の発表や練習の場となっている。そうした活動を、もっと気軽に発信、広報できる工夫を考えていくことも必要だと思う。

(河合亮子委員)

人生 100 年時代だから、何かを学ぼうと思ったら年齢は関係ない。やりたいと思ったら始めてみる第一歩が大切。協働センターは地域の拠点であり、そこに足を運んだときに、感じのよいボランティアグループや、やってみたい料理教室など、あまりお金をかけずにできる場があった、というのが理想だと思う。現在、生涯学習ボランティアのグループを運営しており、13～88 歳までの方が所属している。最年長の 88 歳の方は、85 歳の時に白内障になったので辞めると言ったが、治って復帰したら大活躍している。おばあちゃんの知恵をたくさん教えてくれている。また、琴の教室をやっているが、80 歳から始めた方もいる。

(伊藤豪委員長)

年をとると消極的になってしまうが、積極さを忘れてはいけないと思う。

(島埜内恵副委員長)

生涯学習の学習者側がどうアクセスし、アクセスのハードルをどれだけ下げられるかが重要だと感じる。大学連携講座で協働センターの方とお話した際、リピーターの方が多いのは嬉しいが、そうでない子もアクセスできるとよいと感じた。申し込みする方も、協働センターへ申込書を提出するのではなく、ボタン 1 つで申込やキャンセルが出来る気軽さが必要である。

浜松市の社会教育や生涯学習はこれだけの枠組みがあることがもっと評価されてもよいのではないか。既にある枠組みをより多くの人に知ってもらい、そこにアクセスしやすく仕組みがあるとよい。持続可能な仕組みを考えたとき、年齢関係なくやりたいことを立ち上げていくときに、利用できる枠組みが必要。学習や活動をしたい思いがある人は多くいるので、思いを実現しやすい枠組みがあるとよいと考えている。

(2) 令和元年度集まれ市民力～生涯学習フェスタについて

■事務局から、資料 2 に基づき、令和元年度集まれ市民力～生涯学習推進フェスタについて報告

■生涯学習推進フェスタに参加してみて

(島埜内恵副委員長)

「み～んなで 楽しもう ものづくり」で、協働センターボランティアと浜松学院高校の参加はどのような経緯で可能になったのか教えていただきたい。

(事務局)

12～3の協働センターの生涯学習ボランティアの団体が集まって「浜松生涯ボランティアの会」を組織し、その方たちが運営主体となり話し合いで毎年の内容を決めている。浜松学院高校は、ボランティアの会の代表の方が毎年声をかけて参加していただいている。

(河合亮子委員)

講演会の講師の釘山先生の話は具体的でとても参考になった。地域の会合で、コの字型の会議は絶対ダメ、多数決は絶対ダメということは、目からうろこの話だった。会議をするなら、多数決ではなく、ちょっとした希望を出してみんなで決めていく夢実現型。対話型のグループで、いろいろな意見をぶつけてみようというのを実践してみたい。

(鈴木一夫委員)

講師の話は、だんだんと面白くなっていった。今日の会議みたいに広い場所ではなく近よって小さい会議がよいと分かった。

(伊藤豪委員)

コの字型の会議は改まって、意見が言えなくなってしまう。これは、私にとっても目からうろこの話だった。

(鈴木信行委員)

少人数での対話だったため、色々な話ができた。たまたま以前お世話になった方と席が隣になり楽しかった。

(晝馬るみ委員)

意見を出しやすい雰囲気がとても良いと思った。ただ、結論を出さなくてはいけないという会議にはこの手法は使えないなど感じた。時と場によって使える手法だと思う。地域活性化の点からすると、フェスタは大変よいイベントだと思う。

(近藤潤子委員)

楽しい雰囲気がよかった。

(中村朋子委員)

来年はぜひ参加したい。

(事務局)

今年で3年目となった。これまで社会教育委員の皆様にご意見をいただきながら改善してきた。今年は、長机1つでの交流会にしたら、講師の先生からも斬新な感じで出来たとご評価いただいた。

(伊藤豪委員長)

話し合いの形は大切だと思う。先日参加した会議はとても広い会場で顔も見えず、緊張してしまい何も言えないような雰囲気だった。

(事務局)

積極的なご意見をいただき大変感謝している。色々な活動が生まれる中で、今後の問題としては、活動と人のつながり。活動したいときに相談できるコーディネーターがいるとよい。まだまだ様々な課題があると思うので、皆さんの意見を聞きながらよくしていけたらと思う。今後もよろしくお願ひしたい。

3 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・社会教育委員会の事業の進捗状況  
はままつ地域づくり講座【連絡資料ア】  
浜松市と大学の連携事業 成果報告会【連絡資料イ】

- ・次回開催予定  
令和2年3月16日（月）15時～

4 閉会

9 会議録署名人 なし